

令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立細谷小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和7年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和7年4月17日(木)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 理科, 児童質問調査)

4 本校の参加状況

- | | |
|------|-----|
| ① 国語 | 70人 |
| ② 算数 | 70人 |
| ③ 理科 | 70人 |

5 留意事項

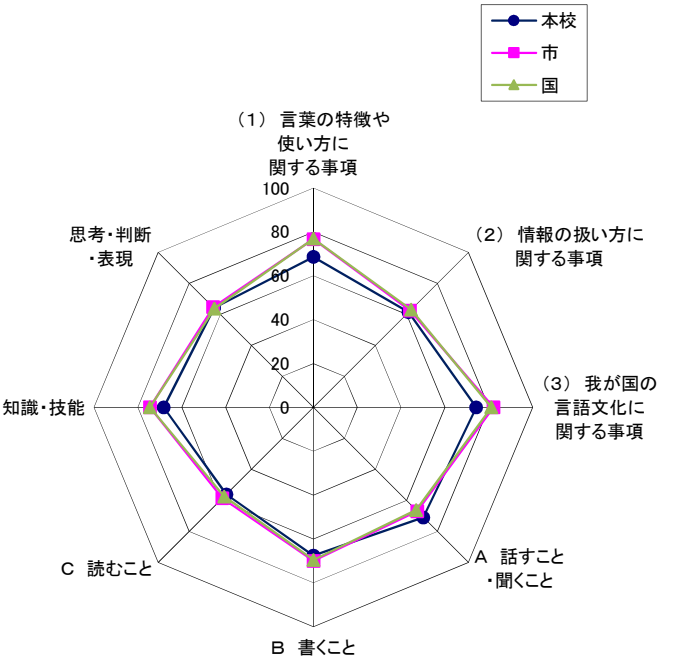
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数、理科の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部分であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立細谷小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使い方にに関する事項	68.6	76.7	76.9
	(2) 情報の扱い方にに関する事項	61.4	62.4	63.1
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	74.3	82.1	81.2
	A 話すこと・聞くこと	71.0	67.0	66.3
	B 書くこと	67.6	70.0	69.5
	C 読むこと	56.1	58.6	57.5
観点	知識・技能	68.2	74.5	74.5
	思考・判断・表現	64.0	64.6	63.8
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

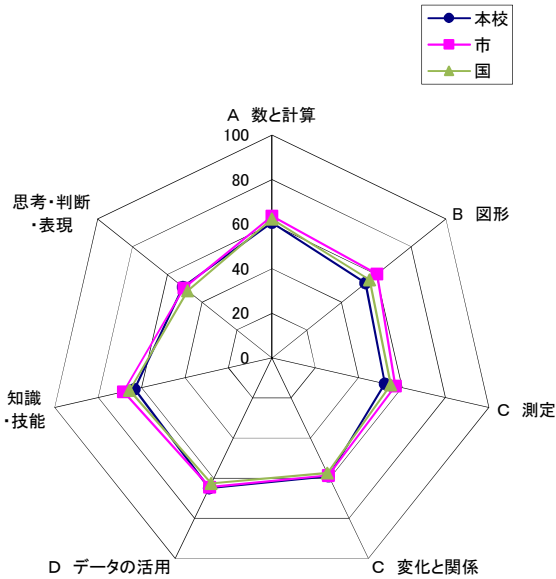
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言葉の特徴や使い方にに関する事項	●単語を漢字に書き直す問題では本校の正答率が75.7%と61.4%で、県の平均をそれぞれ5.8ポイント、8.9ポイント下回っている。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・漢字の読み・書きに関しては、漢字ドリルや漢字練習帳、ミニテストを活用し、基礎・基本の定着を図っていく。また、文の中で正しい漢字を使えるよう、日常的な指導を充実させていく。
(2) 情報の扱い方にに関する事項	●話合いの記録の書き表し方として、適切なものを選択する問題では、本校の正答率は61.4%で、県の平均を0.6ポイント下回っている。	・各教科で、情報と情報との関連付けの仕方、図などによる語句と語句の関係の表し方を理解して使えるよう、見方や書き方を指導し、練習する場を設ける。
(3) 我が国の言語文化に関する事項	●時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いを読み取る問題では、本校の正答率は74.3%で、県の平均を6.5ポイント下回っている。	・読書指導の際には物語だけでなく、説明的な本にも触れさせる機会を多くもたせることで、文章に書かれている内容を的確に捉える力の育成を図っていく。また、言葉の意味を国語辞典を使って進んで調べられるように、辞書を使うことを日常的に取り入れていく。
A 話すこと・聞くこと	○自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉える問題では、本校の正答率は78.6%で、県の平均を7ポイント上回っている。 ○他の2問も県の平均を上回っている。	・話し合う活動では、①役割を交代して話し合わせる、②質問したり答えたりする体験をする、③話合いを聞いて感想を述べ合うなどの多様な方法を試みてきたことで、話し合う力が定着してきたと思われる。これからも話し合う活動を積極的に取り入れながら、話合いの質を高めていきたい。
B 書くこと	●書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして文章の構成を考えることができるかどうかを見る問題では、本校の正答率は62.9%で、県の平均を2.3ポイント下回っている。	・各教科の振り返りに観点を示して書くなどの時間を、授業の中に意図的に設ける。 ・100字程度の文章を条件に合わせて書く活動や、キーワードを使った文章作りなどを多く取り入れていく。また、段落数を指定したりメモを作ってから文章を書かせたりするなどして、構成を考えた文が書けるようにしていく。
C 読むこと	○自分が納得したことを、資料に書かれていることを理由にしてまとめる問題では、本校の正答率は58.6%で、県の平均とほぼ同じである。 ●内容の大体を捉える問題の本校の正答率は78.6%、文章全体の構成を捉えて要旨を把握する問題の本校の正答率は50%で、どちらも県の平均を下回っている。	・読書を推奨し、様々な分野の文章に触れることで、語彙を増やせるようにする。 ・文章を読むときは、大事な言葉に線を引きながら読んだり、時、場所、登場人物を丁寧に把握したりし、内容の大体を捉える練習を積み重ねる。 ・段落ごとの要点をまとめたり、筆者の主張を自分の言葉で言い換えたりし、要旨を把握する力を高めていく。

宇都宮市立細谷小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	60.7	63.6	62.3
	B 図形	53.9	60.4	56.2
	C 測定	52.1	56.9	54.8
	C 変化と関係	59.0	58.6	57.5
	D データの活用	64.9	64.4	62.6
観点	知識・技能	63.2	68.3	65.5
	思考・判断・表現	51.0	50.4	48.3
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

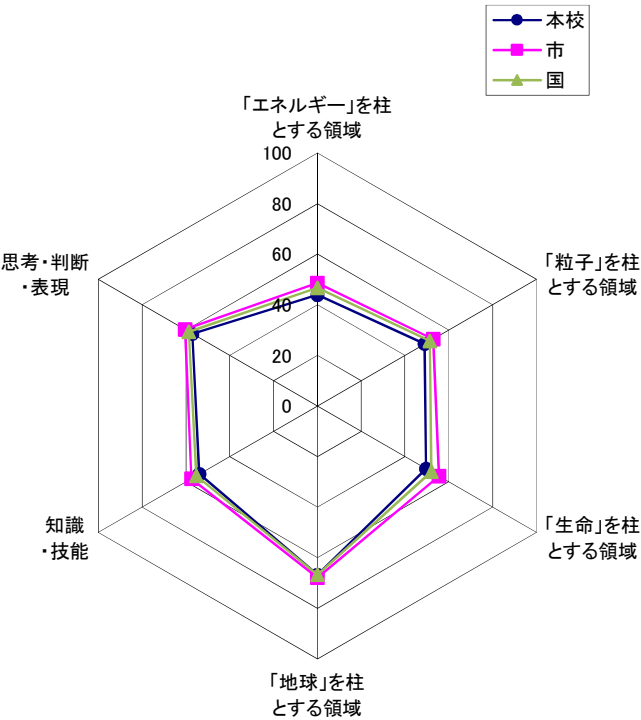
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	○ $3/4 + 2/3$ について、共通する単位分数と、 $3/4$ と $2/3$ が、共通する単位分数の幾つになるかを、書く問題では、正答率が27.1%と県の平均より3.5ポイント上回っている。 ●数直線上に示された数を分数で書く問題では、正答率が30.0%と県の平均を11.1ポイント下回っていた。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・自分の考えを、式や図、言葉等を用いて表現したり、発表したりする機会を増やすことで、数量関係や、さまざまな計算などの課題について理解を深めることができるように指導していく。
B 図形	○五角形の面積を求めるために五角形を二つの図形に分割し、それぞれの図形の面積の求め方を記述する問題では、正答率が40.0%と、県の平均を1.8ポイント上回っている。 ●平行四辺形をかくために、コンパスの開く長さを書き、コンパスの針を刺す場所を選ぶ問題では、正答率が51.4%と、県の平均より8.1ポイント下回っていた。	・基本的な図形や立体の意味や性質、求積の仕方について理解を深められるよう、既習事項の復習を行い、内容の定着を引き続き図る。 ・コンパスや分度器、三角定規を用いた作図の機会を設け、さらに場面にに応じて使い分けができるよう指導していく。
C 測定	○使いかけのハンドソープがあと何プッシュすることができるのかを調べるために、必要な事柄を判断し、求め方を記述する問題では、正答率が47.1%と、県の平均とほぼ同じである。 ●はかりが示された場面で、はかりの目盛りを読む問題では、正答率が57.1%と、県の平均を4.2ポイント下回っている。	・伴って変わる二つの数量の関係に着目し、問題を解決するために必要な数量を見いだしたり、知りたい数量の大きさを求めたりする活動を、さまざまな学習活動の中に取り入れ、問題解決のために自ら判断する力を伸ばすようにする。 ・日常生活の中ではかりを使って身の回りのものの重さを測定するなど、多くの場面でさまざまな量の単位を使って、繰り返し指導し、積極的に算数を活用する姿勢を育むようにする。
C 変化と関係	○10%増量したつめかえ用のハンドソープの内容量が、増量前の何倍か選ぶ問題では、正答率が47.1%と県の平均を8.9ポイント上回っている。 ●使いかけのハンドソープがあと何プッシュすることができるのかを調べるために、必要な事柄を判断し、求め方を記述する問題では、正答率が47.1%と、県の平均とほぼ同じである。	・伴って変わる二つの数量の関係の表し方の意味や計算の仕方などについて、さまざまな場面や数値を使って、繰り返し指導し、理解を深めることができるようにする。
D データの活用	○都道府県Aのブロッコリーの出荷量が増えたかどうかを調べるために、適切なグラフを選び、出荷量の増減を判断し、そのわけを書く問題では、正答率が41.4%と、県の平均を8.8ポイント上回っている。 ●2022年の全国のブロッコリーの出荷量が2002年の全国のブロッコリーの出荷量の約何倍かを、棒グラフから読み取って選ぶ問題では、正答率が74.3%と県の平均より1.8ポイント下回っていた。	・データの全体と部分、部分と部分の関係を考えながら、データの特徴や傾向をとらえられるようにしたり、複数のグラフから深く読み取ったり、分析したりすることを授業で大切にする。

宇都宮市立細谷小学校第6学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【理科】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	「エネルギー」を柱とする領域	43.9	48.6	46.7
	「粒子」を柱とする領域	49.0	52.8	51.4
	「生命」を柱とする領域	49.6	55.5	52.0
	「地球」を柱とする領域	66.7	67.9	66.7
観点	知識・技能	53.9	57.5	55.3
	思考・判断・表現	57.1	60.4	58.7
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
「エネルギー」を柱とする領域	○ベルをたたく装置の電磁石について、電流がつくる磁力を強めるため、コイルの巻き数の変え方を書く問題での本校の正答率が84.3%と、県の平均を6.4ポイント上回っており、十分に理解できていた。 ●乾電池2個のつなぎ方について、直列につなぎ、電磁石を強くできるものを選ぶ問題では本校の正答率が45.7%と、県の平均より12.2ポイント下回り、課題が見られる。	・実験や観察を行った後に結果を基に自分で考察を書くことを続ける。 ・単元の終わりににはまとめを行い、学習内容を整理することで、実験結果や考察・その根拠を答えることができる力を養う。
「粒子」を柱とする領域	○水の温まり方について、問題に対するまとめをいうために調べる必要があることについて書く問題では、本校の正答率が県の平均と同程度だった。 ●水の結露について、温度によって水の状態が変化するという知識と関連付け、説明する問題では、本校の正答率が52.9%と、県の平均より6.4ポイント下回っており、課題が見られる。	・単元ごとに自分が興味をもったことや関心が強まったものについて、単元の終末で調べる時間を設けて、児童の関心意欲を高めるように指導していく。 ・単元ごとにノートにまとめを書き、学習した内容の振り返りと自分の課題を明らかにし、文章でまとめられるようにする。
「生命」を柱とする領域	○へちまの花のめしべとおしべについて選び、受粉について書く問題では、本校の正答率が80.0%と、県の平均を3.9ポイント上回った。 ●へちまの花粉を顕微鏡で観察するときの、顕微鏡の操作についての問題では、本校の正答率が32.9%と、県の平均を14.9ポイント下回った。	・実験器具を正しく操作する方法を定期的に復習したり、体験させる活動を積極的に授業に取り入れたりしていく。
「地球」を柱とする領域	○水が陸から海にかけて流れていくことについて、水の行方と関連付けているものを選ぶ問題では、本校の正答率が65.7%と、県の平均を3.6ポイント上回った。 ●水の結露について、温度によって水の状態が変化することと関連付け、適切に説明しているものを選ぶ問題では、本校の正答率が52.9%と、県の平均を6.4ポイント下回った。	・日頃から天気や気候などの自然現象に興味に向くような情報を発信したり、学習した内容の定着を深めるため、適宜復習を行ったりする。 ・学習した内容について、使用するキーワードを指定したり、関連する項目を挙げさせたりして、言葉で説明する活動の場を設ける。

宇都宮市立細谷小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。」に対する肯定的回答は昨年度同様100%であった。「いじめは絶対に許さない」という共通認識のもと、いじめ対策への取組をこれまで以上に充実させ、いじめの根絶を目指していく。

○「将来の夢や目標を持っていますか。」に対する肯定的回答は93.1%で、県の平均の85.5%を大きく上回った。今後もキャリアパスポート等を活用し、夢や目標をもって頑張る児童の育成をしていく。

●「自分には、よいところがあると思いますか。」に対する肯定的回答は82.2%で、県の平均88.4%を下回っている。全ての教育活動を通して認め励ます指導を行い、自己有用感・自己肯定感を高めていく。

●「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか。」に対する肯定的回答は67.2%で、県の平均74.0%を下回っている。学級担任だけでなく「チーム細谷」として、学校全体で児童の心の変化やSOSへの早期対応、共通認識に基づく対応・やきめ細かな指導を行っていく。

●「国語の勉強は得意ですか。」に対する肯定的回答は53.4%で、県の平均を下回っている。また、「国語の勉強は好きですか。」に対する肯定的回答は45.2%で、県の平均59.8%を大きく下回っている。国語に対して、苦手意識をもっていることが考えられる。今後も、学習形態を工夫したり、ICTを効果的に活用したりしながら、児童の学習意欲を高めていくようにしたい。

○「国語の授業で、目的に応じて説明的な文章を読み、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けていますか。」に対する肯定的回答は83.6%で、県の平均をわずかに上回っている。

○「算数の勉強は得意ですか。」に対する肯定的回答は63.0%で、県の平均61.0%をわずかに上回っている。

●「算数の勉強は好きですか。」に対する肯定的回答は50.7%で、県の平均59.1%を大きく下回っている。答えを導き出すための過程で図や式を用いて多様な表し方ができることに触れさせ、算数の楽しさを味わわせていく。

○「理科の授業の内容はよく分かりますか。」に対する肯定的回答は95.9%で、県の平均90.3%を5.6ポイント上回った。実験や観察などの体験学習の充実やICTの効果的活用を通して、更に理解が深まるよう、努めていきたい。

●「理科の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できていますか。」や、「自然の中や日常生活、理科の授業において、理科に関する疑問を持ったり問題を見いだしたりしていますか。」に対する肯定的回答はそれぞれ43.9%、57.6%と、どちらも県の平均よりも22.5ポイント、14.7ポイント下回った。授業で学習したことをその場だけの知識に留めるのではなく、様々な自然現象や他教科の学習に関連させて考えさせる時間を意図的に設定し、向上を図ってきたい。

●「5年生までに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか。」に対する肯定的回答は78.0%で、県の平均を9.1ポイント下回っている。教材研究などを通して、個々に応じた指導ができるように努めていきたい。

●「学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか。」に対する肯定的回答は72.6%で、県の平均を11.4ポイント下回っている。集団討論による自己決定した目標に根気強く取り組んでいけるよう、声掛けをしていきたい。

●「読書は好きですか。」に対する本校の肯定的回答は54.3%で、県の平均を16.3ポイント下回っている。これまでに本校で実施している保護者のボランティアによる読み聞かせや、読書週間などに加えて、読書に親しむ機会を設けていきたい。

●「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか。」に対する肯定的回答は75.4%で、県の平均を7.6ポイント下回っている。前の質問の結果により、児童と地域の大人との関りが希薄であることが分かる。学校行事などを通して地域との関わる機会を設けていくことで、児童の地域に対する関心を高めていきたい。

宇都宮市立細谷小学校（第6学年）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
自らのよさに気づき、伸ばすことができる指導の工夫	○授業における児童のよさを認め励ます支援の充実 ○自己評価、相互評価を含めた振り返り活動の充実 ○学ぶ意欲を喚起する指導の充実 ○互いに認め、励まし合い、学び合う学習の場の設定と学習形態の工夫 ○まどめの学習の充実と振り返りの方法の工夫	「自分にはよいところがある。」と答えている児童は82.2%で、県の平均を下回っている。「人の役に立つ人間になりたい。」と答えている児童は97.3%と、県の平均を上回っている。「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う。」と答えている児童は95.9%で、わずかではあるが県の平均を上回っている。今後も児童のよさを認め、励ます支援に努めながら、「自己有用感」を高める指導を推進していく。
主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善	○ねらい、まどめの明示など分かりやすい板書の工夫 ○児童が自ら選択して取り組む学習活動の重視 ○特別支援教育の視点を取り入れた指導の工夫 ○ICTの積極的に活用による学びの深化	「5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた。」と答えている児童は75.4%と、県の平均を下回っている。「5年生までの学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、自分のペースで理解しながら学習を進めることができる。」と答えている児童は82.2%と、県の平均とほぼ同等だった。今後も児童自らが進んで課題に取り組むことのできる指導や、ICT等を活用した学習を行い、学習意欲を高める工夫をしながら課題解決型の学習を進めていきたい。
安心して伝え合い、高め合える学び合いの重視	○「きらきら細谷予学習の約束」による学習習慣の形成 ○目的を明確にした学び合いのコーディネート ○話の聞き方・話し方の基本的な学習態度・学習技能の育成	「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている。」と答えている児童は90.4%と、県の平均を上回っている。「授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいる。」と答えている児童は94.5%で、県の平均をわずかではあるが上回っている。今後も、より一層意見を交流させる機会を、授業や学校生活の様々な場面で設けていくようにする。
基礎・基本の確実な定着を図る指導と家庭学習の習慣化	○学力調査等を活用した共通実践 ○朝の学習の充実（漢字・計算・読書） ○家庭学習（自学）の進め方の指導と家庭学習の定着化 ○漢字・計算オリンピックの年2回の実施 ○授業のユニバーサルデザイン化	「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしているか。」では、1時間から2時間と答えた児童が47.9%で、最も多かった。また、「土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしているか。」では、1時間から2時間と答えた児童が35.6%と最も多かった。自主学習ノートを活用するなど、自主学習への取組を推奨しているが、内容・学習時間等に課題がある。自主学習を習慣化し、内容を充実できる方法や仕組みを考え、働きかけていきたい。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
・自分の考えや文章の要旨などを、文章や言葉、式などで表したり、決められた字数で書き抜いたりする問題の正答率が低い。無回答も少なくない。	○考えの根拠を明確にし、推測したり表現したりする力をつけるための活動を取り入れる。 ○相手、場面、目的などに応じて、自分の考えや解き方の説明などを、文章、言葉、式などで分かりやすく表現する力を身に付けることができるよう、言語活動の充実を図る。	・授業において自分の考えを話す機会を意図的に設けたり、自分や他者の考えに理由を加えて話し合ったりする活動を増く取り入れることにより、表現力の育成を図る。 ・テーマを決めて自分の考えを話したり、友達の考えを聞き取ったりする機会を増やしたりしながら、要点を正確に話したり、聞いたりできるように繰り返し指導していく。